

独自分析レポート

**ゼネコン 主要10社
過去3年における決算まとめ**

ヒューマンリソシア株式会社
「建設HR」編集部



目次

はじめに … 3

2019年度3月期決算 … 4

2020年度3月期決算 … 9

2021年度3月期決算 … 14

はじめに

「建設HR」編集部では、建設業界に特化した人材動向／市場動向／未来予測などの調査・分析から、独自調査レポートやマンスリーレポート、建設DXの最新ソリューションを紹介するセミナーなど、建設業界に関わるさまざまな情報発信を行っています。

本レポートでは、総合工事業（ゼネコン）の主要上場企業各10社の過去3年分の決算資料（決算短信）から建設市場動向をまとめました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、建設業関連各社の決算はどのように推移しているのか、来期（2022年3月期）についてはどのような状況になるのか、検討する参考資料としてご利用いただければ幸いです。

2019年度3月期決算

<総合工事業（ゼネコン）> 2019年度3月期第1四半期決算概況

■ 10社中5社が減収減益、利益面でやや厳しい結果に

10社のうち5社が減収減益となり、利益面でやや厳しい決算になっています（＝図表1）。ただし2019年3月期通期の業績予想では10社中6社が減益予想となっており、第1四半期での減益は織り込み済みと言えます。

【図表1 総合工事業主要10社2019年3月期の第1四半期決算（連結）の実績】

企業名	2019年第1四半期				傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	
大林組	437,307	99.6%	25,941	95.6%	減収減益
鹿島建設	416,985	104.0%	34,133	70.8%	増収減益
清水建設	357,176	105.0%	22,328	77.9%	増収減益
大成建設	318,218	99.4%	17,451	61.2%	減収減益
長谷工コーポレーション	223,528	121.0%	23,795	131.2%	増収増益
五洋建設	116,398	94.3%	6,756	101.4%	減収増益
前田建設工業	105,952	108.7%	8,081	120.3%	増収増益
戸田建設	90,236	99.4%	4,799	60.0%	減収減益
三井住友建設	86,781	94.8%	4,201	65.2%	減収減益
安藤ハザマ	73,204	86.9%	2,490	50.5%	減収減益
合計	2,225,785	102.5%	149,975	81.8%	増収減益

<総合工事業（ゼネコン）> 2019年度3月期第2四半期決算概況

■収益性改善が進み、2社が通期予想を上方修正

第1四半期の決算では減収減益が5社と収益性の面ではやや厳しい結果になっていましたが、第2四半期については減収減益が2社に減り、業界全体として収益性の改善が見られました（＝図表2）。

業界首位の大林組は、第1四半期は減収減益でしたが、第2四半期では増収増益に転じており、2019年3月期の売上高は予想通り1兆9,700億円となり、5年連続で過去最高を更新する見通し、営業利益は1,390億円と4年連続で過去最高を記録する見通しとしています。

また、鹿島建設と大成建設は、高水準であった前期に比べて減益となっているものの、資材コストや人件費の上昇が想定を下回ったことから、通期の利益予想を上方修正しました。

一方、安藤ハザマは、一部の大型工事で進捗率が想定を下回っていることや、7月に発生した建設現場での大規模火災の影響等から、通期業績予想を売上高、利益ともに大幅に下方修正しました。

【図表2 総合工事業主要10社2019年3月期の第2四半期決算（連結）の実績】

企業名	2019年第2四半期				
	売上高 (百万円)	前年 同四半期 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	第2四半期傾 向
大林組	937,138	102.1%	69,742	105.6%	増収増益
鹿島建設	897,767	109.1%	72,125	85.5%	増収減益
清水建設	729,675	106.5%	51,946	98.7%	増収減益
大成建設	704,651	102.8%	50,263	77.7%	増収減益
長谷工コーポレーション	441,090	113.3%	46,372	107.1%	増収増益
五洋建設	244,478	97.5%	15,080	110.2%	減収増益
前田建設工業	221,034	103.4%	17,774	92.4%	増収減益
戸田建設	203,046	111.8%	11,862	87.5%	増収減益
三井住友建設	191,682	98.9%	12,491	92.9%	減収減益
安藤ハザマ	168,610	90.0%	6,172	33.6%	減収減益
合計	4,739,171	104.7%	353,827	90.9%	増収減益

<総合工事業（ゼネコン）> 2019年度3月期第3四半期決算概況

■ 10社中9社が増収、4社が増収増益

各社ともに潤沢な手持ち工事を順調に消化して10社中9社が増収となり、全体として好調な決算となっています（＝図表3）。

大林組、清水建設、長谷工コーポレーション、前田建設工業の4社が売上高、利益ともに好調に推移し、増収増益となっています。長谷工コーポレーションと前田建設工業は好調な業績推移を受けて、通期業績予想を売上高、利益ともに上方修正しています。

一方、2018年7月に発生した建設現場での大規模火災の影響などから、第2四半期発表時において通期業績予想を売上高、利益ともに大幅に下方修正した安藤ハザマは、第3四半期についても減収減益となりました。また、戸田建設は第3四半期の業績動向を踏まえて、売上高、利益ともに通期業績予想を下方修正しています。

【図表3 総合工事業主要10社2019年3月期の第3四半期決算（連結）の実績】

企業名	2019年第3四半期				傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	
大林組	1,482,513	108.1%	113,076	107.8%	増収増益
鹿島建設	1,405,208	105.5%	112,165	85.8%	増収減益
清水建設	1,150,611	109.6%	82,878	101.6%	増収増益
大成建設	1,097,508	101.3%	89,295	75.9%	増収減益
長谷工コーポレーション	655,379	113.0%	71,273	107.5%	増収増益
五洋建設	385,640	102.1%	18,418	87.8%	増収減益
前田建設工業	349,401	101.6%	27,864	101.1%	増収増益
戸田建設	327,821	113.2%	19,901	88.3%	増収減益
三井住友建設	304,564	104.2%	20,715	98.7%	増収減益
安藤ハザマ	253,082	93.8%	11,283	45.3%	減収減益
合計	7,411,727	106.1%	566,868	91.7%	増収減益

＜総合工事業（ゼネコン）＞2019年度3月期決算概況

■ 10社中9社が増収、うち6社が増収増益も、利益面で苦しく

総合工事業（ゼネコン）主要10社の2019年3月期決算は、業界トップの大林組が売上高を初の2兆円台に乗せるなど好調な結果となった企業が多く、10社中9社が増収、うち大林組、清水建設、五洋建設、戸田建設、前田建設工業、三井住友建設の6社が増収増益となりました（＝図表4）。首都圏再開発工事を中心とした手持ちの大型工事の消化が順調に進んで完成工事高が増加しているようです。

2020年3月期の業績予想についても、底堅い民間建設需要、国土強靱化関連の公共投資増加を背景に7社が増収、うち清水建設、五洋建設、安藤ハザマの3社が増収増益を予想しています。一方、減益を予想する企業が7社あるなど、収益性の面では厳しい業績になることが見込まれています。

【図表4 総合工事業主要10社の2019年3月期（連結）の実績と2020年3月期の予想値】

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想			
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比
大林組	2,039,685	107.3%	163,054	113.3%	増収増益	2,030,000	99.5%	156,500	96.0%
鹿島建設	1,974,269	107.8%	162,901	90.6%	増収減益	2,040,000	103.3%	127,000	78.0%
清水建設	1,664,960	109.6%	133,957	107.9%	増収増益	1,760,000	105.7%	135,000	100.8%
大成建設	1,650,877	104.1%	157,936	85.2%	増収減益	1,740,000	105.4%	149,000	94.3%
長谷工コーポレーション	890,981	109.6%	100,369	99.9%	増収減益	860,000	96.5%	85,000	84.7%
五洋建設	541,949	102.9%	26,569	103.4%	増収増益	580,000	107.0%	29,500	111.0%
戸田建設	510,436	119.0%	37,493	113.5%	増収増益	520,000	101.9%	32,800	87.5%
前田建設工業	492,087	105.2%	38,363	103.6%	増収増益	475,000	96.5%	32,800	85.5%
三井住友建設	448,758	107.5%	28,862	101.4%	増収増益	460,000	102.5%	25,000	86.6%
安藤ハザマ	359,971	95.5%	22,495	64.7%	減収減益	418,800	116.3%	29,600	131.6%

2020年度3月期決算

<総合工事業（ゼネコン）> 2020年度3月期第1四半期決算概況

■ 10社中7社が増収増益で、売上・利益ともに好調

堅調な民間設備投資及び公共投資を背景に10社中7社が増収増益となり、全体として好調な決算となっています（図表5）。

大手ゼネコン4社では、大林組、清水建設、大成建設が増収増益となっており、豊富な手持ち工事を順調に消化して利益を確保しています。鹿島建設は増収ながら大幅な減益となっていますが、今後の手持ち工事の進捗によって改善される見込みとしており、ゼネコン業界全体として、売上・利益ともに好調な決算であると言えます。そのような中、長谷工コーポレーションのみが、マンション工事の施工量減少と完成工事総利益率の低下により減収減益となっています。

【図表5 総合工事業主要10社の2020年3月期第1四半期決算（連結）の実績】

企業名	2020年3月期第1四半期								
	売上高 (百万円)	前年 同四半期 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	傾向
大林組	446,720	102.2%	25,399	110.1%	28,112	108.4%	22,733	126.7%	増収増益
鹿島建設	427,211	102.5%	19,429	63.6%	22,751	66.7%	18,922	68.7%	増収減益
清水建設	411,126	115.1%	27,805	139.8%	30,668	137.4%	24,284	155.1%	増収増益
大成建設	349,621	109.9%	25,907	169.5%	27,976	160.3%	21,443	165.4%	増収増益
長谷工コーポレーション	192,139	86.0%	17,359	73.8%	17,542	73.7%	12,525	73.6%	減収減益
五洋建設	144,756	124.4%	8,228	124.5%	8,134	120.4%	5,918	115.6%	増収増益
戸田建設	119,857	132.8%	8,404	237.6%	9,749	203.1%	6,769	198.3%	増収増益
前田建設工業	112,669	106.3%	8,819	118.7%	10,992	136.0%	8,775	145.3%	増収増益
三井住友建設	98,383	113.4%	4,505	103.7%	4,454	106.0%	2,876	108.6%	増収増益
安藤ハザマ	71,431	97.6%	2,710	104.4%	2,495	100.2%	1,640	108.3%	減収増益
合計	2,373,913	106.7%	148,565	108.6%	162,873	108.6%	125,885	114.6%	増収増益

<総合工事業（ゼネコン）> 2020年度3月期第2四半期決算概況

■ 10社中9社が増収、うち7社が増収増益で、売上・利益ともに好調

堅調な民間設備投資や公共投資を背景に10社中9社が増収、うち7社が増収増益となっています（図表6）。非上場のフジタについても増収となっておりゼネコン業界全体で好調な決算だと考えられます。大手ゼネコン上位4社では、大林組、清水建設、大成建設の3社が増収増益で純利益は過去最高となっており、豊富な手持ち工事を順調に消化して利益を確保しています。

鹿島建設は増収減益となっていますが、減益幅は第1四半期と比べて縮小しており、大手ゼネコン上位4社は好調な決算が続いていると言えます。そのような中、長谷工コーポレーションのみが、マンション工事の施工量減少による減収となり、前年同期に特別利益を計上した反動で純利益も大幅に減少しています。

【図表6 総合工事業主要10社の2020年3月期第2四半期決算（連結）の実績】

企業名	2020年3月期第2四半期								傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	
大林組	965,290	3.0%	72,764	11.9%	76,751	10.0%	56,813	16.4%	増収増益
鹿島建設	947,198	5.5%	59,741	-1.5%	65,069	-9.8%	49,810	-8.6%	増収減益
清水建設	834,850	14.4%	62,379	26.5%	65,272	25.7%	47,694	30.5%	増収増益
大成建設	766,414	8.8%	59,852	24.7%	62,460	24.3%	44,879	27.4%	増収増益
長谷工コーポレーション	414,234	-6.1%	43,635	-5.4%	43,444	-6.3%	30,168	-34.9%	減収減益
五洋建設	295,224	20.8%	17,172	13.7%	17,359	15.1%	12,073	11.3%	増収増益
前田建設工業	237,311	7.4%	18,034	7.5%	20,635	16.1%	15,894	33.7%	増収増益
戸田建設	235,365	15.9%	15,544	50.9%	16,911	42.6%	12,286	48.7%	増収増益
三井住友建設	211,006	10.1%	12,171	-2.8%	12,025	-3.7%	7,923	-10.1%	増収減益
安藤ハザマ	176,209	4.5%	11,820	75.4%	11,471	85.9%	7,678	310.8%	増収増益
合計	5,083,101	7.3%	373,112	12.9%	391,397	10.6%	285,218	8.4%	増収増益

<総合工事業（ゼネコン）> 2020年度3月期第3四半期決算概況

■ 9社が増収うち7社が増収増益、売上高・利益ともに好調

堅調な民間設備投資や公共投資を背景に、10社中9社が増収、うち7社が増収増益となっています（図表7）。大手ゼネコン4社では、大林組、清水建設、大成建設の3社が増収増益となりました。鹿島建設は純利益が前年同期比15.5%減となりましたが、売上高は同2.3%増となっており、各社ともに豊富な手持ち工事を順調に消化して好調な決算となっています。なお、通期業績予想については4社ともに据え置いています。準大手ゼネコンである五洋建設と戸田建設は売上高、営業利益、経常利益、純利益すべてが前年同期比で二桁の伸び率となり、ともに純利益の通期予想を上方修正しています。

このように業界全体としては好調な決算の中、長谷工コーポレーションのみがマンション工事の施工量減少、完成工事総利益率の低下等により減収減益となっています。また、安藤ハザマは増収増益ではありますが、一部大型工事の進捗および採算性が予想を下回ることから、通期業績予想を売上高、純利益ともに下方修正しています。

【図表7 総合工事業主要10社の2020年3月期第3四半期決算（連結）の実績】

企業名	2020年3月期第3四半期								
	売上高 (百万円)	前年 同四半期 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期 増減率	傾向
大林組	1,498,420	1.1%	118,424	11.1%	125,663	11.1%	91,763	15.9%	増収増益
鹿島建設	1,437,429	2.3%	84,772	-11.9%	94,107	-16.1%	69,306	-15.5%	増収減益
清水建設	1,238,776	7.7%	97,057	24.3%	103,522	24.9%	73,853	28.4%	増収増益
大成建設	1,174,690	7.0%	92,999	8.9%	97,300	9.0%	68,679	10.4%	増収増益
長谷工コーポレーション	611,097	-6.8%	61,111	-13.9%	61,292	-14.0%	42,273	-33.2%	減収減益
五洋建設	436,563	13.2%	25,823	24.4%	25,956	40.9%	17,872	35.2%	増収増益
戸田建設	369,924	12.8%	23,507	36.6%	26,059	30.9%	18,737	31.4%	増収増益
前田建設工業	352,642	0.9%	25,683	-2.0%	29,873	7.2%	23,275	24.3%	増収増益
三井住友建設	332,798	9.3%	18,185	-12.5%	17,606	-15.0%	11,598	-19.0%	増収減益
安藤ハザマ	269,360	6.4%	16,910	38.7%	16,410	45.4%	11,043	124.1%	増収増益
合計	7,721,699	4.2%	564,471	5.6%	597,788	5.5%	428,399	4.6%	増収増益

＜総合工事業（ゼネコン）＞2020年度3月期決算概況

■ 8社が増収となるも収益性は低下傾向、新型コロナウイルス感染症の影響もあり21年3月期は6社が減収減益予想

売上高は8社が前期を上回り、10社合計の売上高は前期を2.1%上回っています（図表8）。大林組とフジタ（単体）は過去最高の売上高となりました。しかし、営業利益、経常利益は6社が前期割れ、純利益についても7社が前期割れとなっており、10社合計では営業利益が前期比2.5%減、経常利益が同3.4%減、純利益が同6.9%減であり、収益性は低下傾向です。

2021年3月期の業績予想を見ると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を織り込んだ数値を発表した7社のうち6社は大幅な減収減益予想になっており、厳しい経営環境が予測されています（図表9）。

【図表8 総合工事業主要10社の2020年3月期（連結）の実績】

企業名	2020年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前年同期 増減率	営業利益 (百万円)	前年同期 増減率	経常利益 (百万円)	前年同期 増減率	純利益 (百万円)	前年同期 増減率	
大林組	2,073,043	1.6%	152,871	-1.7%	159,005	-2.5%	113,093	-0.1%	増収減益
鹿島建設	2,010,751	1.8%	131,987	-7.5%	146,645	-10.0%	103,242	-6.0%	増収減益
大成建設	1,751,330	6.1%	167,755	9.4%	173,347	9.8%	122,087	8.5%	増収増益
清水建設	1,698,292	2.0%	133,894	3.2%	137,986	3.0%	98,977	-0.7%	増収減益
長谷工コーポレーション	846,029	-5.0%	85,925	-12.7%	85,253	-15.1%	59,851	-31.5%	減収減益
五洋建設	573,842	5.9%	33,161	13.4%	32,545	22.5%	23,352	23.6%	増収増益
フジタ(単体)	520,802	2.2%	9,886	-54.9%	8,561	-61.1%	6,013	-60.7%	増収減益
戸田建設	518,683	1.6%	35,243	2.1%	38,272	2.1%	25,845	1.0%	増収増益
前田建設工業	487,856	-0.9%	34,045	-5.3%	36,597	-4.6%	14,342	-40.1%	減収減益
三井住友建設	472,402	5.3%	24,765	-15.2%	23,884	-17.2%	15,550	-17.4%	増収減益
合計	10,953,030	2.1%	809,532	-2.5%	842,095	-3.4%	582,352	-6.9%	増収減益

【図表9 総合工事業主要10社の2021年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高	前期比	営業利益	前期比	純利益	前期比
大林組			-			
鹿島建設	1,870,000	-7.0%	111,000	-15.9%	80,000	-22.5%
大成建設	1,450,000	-17.2%	81,000	-51.7%	56,000	-54.1%
清水建設			-			
長谷工コーポレーション	800,000	-5.4%	72,500	-15.6%	49,000	-18.1%
五洋建設	493,000	-14.1%	27,500	-17.1%	18,500	-20.8%
フジタ(単体)			-			
戸田建設	497,000	-4.2%	26,000	-26.2%	19,000	-26.5%
前田建設工業	662,000	35.7%	32,400	-4.8%	10,000	-30.3%
三井住友建設	400,000	-15.3%	18,000	-27.3%	10,000	-35.7%

2021年度3月期決算

<総合工事業（ゼネコン）> 2021年度3月期第1四半期決算概況

■ 8社が減収、うち6社は減収減益の厳しい決算となる

売上高は8社が前年同期を下回り、このうち6社が純利益ベースで減収減益となっています（図表10）。10社合計を見ると、売上高は前年同期比11.8%減、営業利益が同19.7%減、経常利益が同18.5%減、純利益が同29.8%減となっており、高水準であった前年同期との比較では非常に厳しい結果となっています。

今期の業績は、東京オリンピック・パラリンピック関連需要が一段落して需要の端境期になることに加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、8社が減収・純減益と予想しており、減少率も他の5業種と比べて 大きくなっていることから、非常に厳しい経営環境にあると言えます。

【図表10 総合工事業主要10社の2021年3月期第1四半期決算（連結）の実績】

企業名	2021年3月期第1四半期								傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	
鹿島建設	440,742	3.2%	38,907	100.3%	41,480	82.3%	26,454	39.8%	増収増益
大林組	415,109	-7.1%	19,733	-22.3%	22,418	-20.3%	22,758	0.1%	減収増益
清水建設	314,239	-23.6%	13,528	-51.3%	17,557	-42.8%	8,249	-66.0%	減収減益
大成建設	268,784	-23.1%	17,517	-32.4%	20,037	-28.4%	13,238	-38.3%	減収減益
長谷エコーポレーション	171,980	-10.5%	12,028	-30.7%	10,918	-37.8%	7,544	-39.8%	減収減益
前田建設工業	142,635	26.6%	5,634	-36.1%	7,948	-27.7%	3,111	-64.5%	増収減益
五洋建設	114,802	-20.7%	8,180	-0.6%	8,504	4.5%	5,953	0.6%	減収増益
戸田建設	97,145	-18.9%	1,749	-79.2%	3,006	-69.2%	827	-87.8%	減収減益
三井住友建設	89,721	-8.8%	3,302	-26.7%	2,423	-45.6%	1,264	-56.0%	減収減益
フジタ(単体)	78,867	-32.9%	-923	—	-1,101	—	-713	—	減収減益
合計	2,134,024	-11.8%	119,655	-19.7%	133,190	-18.5%	88,685	-29.8%	減収減益

※フジタについては非上場のため同社より取得した決算資料より作成

<総合工事業（ゼネコン）> 2021年度3月期第2四半期決算概況

■ 9社が減収、7社が減収減益、10社合計では純利益がやや改善するも厳しい決算が続く

売上高は9社が前年同四半期を下回り、うち7社が減収減益であり、増益となったのは鹿島建設とフジタ（単体）の2社のみとなっています（図表11）。10社合計を見ると、売上高は前年同四半期比11.9%減（第1四半期は11.8%減）、純利益は同21.8%減（第1四半期は29.8%減）となっており、純利益についてはやや改善していますが依然として厳しい決算が続いています。

2021年3月期の通期業績予想については鹿島建設が売上高を上方修正、大成建設が売上高と純利益を上方修正、前田建設工業が売上高を下方修正、純利益を上方修正、戸田建設が売上高、純利益ともに下方修正しています。

【図表11 総合工事業主要10社の2021年3月期第2四半期決算（連結）の実績】

企業名	2021年3月期第2四半期								傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	
鹿島建設	912,604	-3.7%	72,014	20.5%	79,356	22.0%	51,872	4.1%	減収増益
大林組	852,681	-11.7%	54,871	-24.6%	57,127	-25.6%	47,155	-17.0%	減収減益
清水建設	683,276	-18.2%	46,034	-26.2%	48,997	-24.9%	38,331	-19.6%	減収減益
大成建設	594,074	-22.5%	44,397	-25.8%	47,279	-24.3%	30,652	-31.7%	減収減益
長谷工コーポレーション	369,912	-10.7%	30,940	-29.1%	30,039	-30.9%	20,539	-31.9%	減収減益
前田建設工業	301,243	26.9%	17,443	-3.3%	19,085	-7.5%	9,134	-42.5%	増収減益
五洋建設	227,356	-23.0%	14,968	-12.8%	15,081	-13.1%	10,490	-13.1%	減収減益
戸田建設	214,514	-8.9%	6,105	-60.7%	7,419	-56.1%	4,444	-63.8%	減収減益
三井住友建設	187,759	-11.0%	7,720	-36.6%	6,368	-47.0%	3,447	-56.5%	減収減益
フジタ(単体)	177,289	-20.9%	5,192	25.5%	4,338	9.1%	2,985	11.8%	減収増益
合計	4,520,708	-11.9%	299,684	-18.0%	315,089	-17.9%	219,049	-21.8%	減収減益

※フジタについては非上場のため同社より取得した決算資料より作成

<総合工事業（ゼネコン）> 2021年度3月期第3四半期決算概況

■ 9社が減収、8社が減収減益、10社合計では純利益が約2割減となる

売上高は9社が前年同四半期を下回り、うち8社が減収減益であり、増益となったのは鹿島建設1社のみとなっています（図表12）。10社合計を見ると、売上高は前年同四半期比▲10.8%（第2四半期は▲11.9%）、純利益は同▲19.1%（同▲21.8%）となっており、第2四半期と比べると若干改善していますが依然として厳しい決算が続いています。

2021年3月期の通期業績予想については前田建設工業が売上高、純利益ともに上方修正している以外に変更はありません。

【図表12 総合工事業主要10社の2021年3月期第3四半期決算（連結）の実績】

企業名	2021年3月期第3四半期								傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	
鹿島建設	1,388,923	-3.4%	100,404	18.4%	111,472	18.5%	76,497	10.4%	減収増益
大林組	1,276,904	-14.8%	86,850	-26.7%	91,082	-27.5%	71,161	-22.5%	減収減益
清水建設	1,030,579	-16.8%	70,619	-27.2%	75,169	-27.4%	55,217	-25.2%	減収減益
大成建設	975,095	-17.0%	82,244	-11.6%	86,852	-10.7%	57,157	-16.8%	減収減益
長谷工コーポレーション	553,667	-9.4%	46,628	-23.7%	45,737	-25.4%	31,107	-26.4%	減収減益
前田建設工業	470,957	33.6%	29,053	13.1%	30,549	2.3%	14,509	-37.7%	増収減益
戸田建設	353,101	-4.5%	14,421	-38.7%	16,834	-35.4%	11,244	-40.0%	減収減益
五洋建設	342,280	-21.6%	22,092	-14.4%	21,796	-16.0%	15,008	-16.0%	減収減益
三井住友建設	299,458	-10.0%	12,851	-29.3%	11,036	-37.3%	6,821	-41.2%	減収減益
フジタ(単体)	268,354	-23.3%	7,096	-20.4%	5,629	-35.8%	3,762	-36.0%	減収減益
合計	6,959,318	-10.8%	472,258	-15.1%	496,156	-15.9%	342,483	-19.1%	減収減益

※フジタについては非上場のため同社より取得した決算資料より作成

＜総合工事業（ゼネコン）＞2021年度3月期決算概況

■9社が減収減益、主要10社合計で純利益15.2%減と厳しい決算

2021年3月期の決算は10社中9社が減収減益と厳しい決算になりました（図表13）。ゼネコン大手4社のうち鹿島建設を除く3社は売上高、純利益ともに前期比で2桁減となっています。主要10社合計でも売上高が同9.8%減、営業利益は同15.2%減、経常利益は同15.7%減、純利益は同15.2%減となっており、東京オリンピック・パラリンピック関連の需要が一段落し建設市場が端境期を迎えたことに加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、総合工事業の業績は低迷しました。

【図表13 総合工事業主要10社の2021年3月期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期								傾向
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率	
鹿島建設	1,907,176	-5.2%	127,298	-3.6%	139,729	-4.7%	98,522	-4.6%	減収減益
大林組	1,766,893	-14.8%	123,161	-19.4%	128,784	-19.0%	98,780	-12.7%	減収減益
大成建設	1,480,141	-15.5%	130,516	-22.2%	135,937	-21.6%	92,554	-24.2%	減収減益
清水建設	1,456,473	-14.2%	100,151	-25.2%	105,465	-23.6%	77,176	-22.0%	減収減益
長谷工コーポレーション	809,438	-4.3%	72,909	-15.1%	71,832	-15.7%	48,258	-19.4%	減収減益
前田建設工業	678,059	39.0%	46,343	36.1%	45,665	24.8%	23,275	62.3%	増収増益
戸田建設	507,134	-2.2%	27,697	-21.4%	30,363	-20.7%	19,735	-23.6%	減収減益
五洋建設	471,058	-17.9%	30,460	-8.1%	30,545	-6.1%	20,993	-10.1%	減収減益
三井住友建設	421,619	-10.7%	15,584	-37.1%	13,063	-45.3%	8,743	-43.8%	減収減益
フジタ(単体)	379,240	-27.2%	12,206	23.5%	8,866	3.6%	5,579	-7.2%	減収減益
合計	9,877,231	-9.8%	686,325	-15.2%	710,249	-15.7%	493,615	-15.2%	減収減益

*「収益認識に関する会計基準」などを適用するため業績予想の対前期増減率を公表していない三井住友不動産についても単純計算で対前期増減率を記載している

■10社合計の売上高予想は6.5%増となるも純利益は18.5%減と減益予想

2022年3月期の業績予想は10社すべてが増収としており、売上高は底堅く推移すると考えられています（図表14）。ただし、営業利益、経常利益、純利益は6社が減少すると予想しています。10社合計でも営業利益は前期比16.2%減、経常利益は同17.4%減、純利益は同18.5%減となっており、厳しい受注環境を背景に利益率は低下するとの見方がされています。

【図表14 総合工事業主要10社の2022年3月期（連結）の業績予想】

企業名	2022年3月期の業績予想							
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	経常利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
鹿島建設	2,010,000	5.4%	104,000	-18.3%	114,000	-18.4%	80,000	-18.8%
大林組	1,910,000	8.1%	95,000	-22.9%	98,500	-23.5%	71,500	-27.6%
大成建設	1,640,000	10.8%	90,000	-31.0%	93,000	-31.6%	63,000	-31.9%
清水建設	1,550,000	6.4%	76,500	-23.6%	77,000	-27.0%	58,000	-24.8%
長谷工コーポレーション	850,000	5.0%	78,000	7.0%	75,000	4.4%	51,000	5.7%
前田建設工業	714,400	5.4%	46,700	0.8%	46,000	0.7%	23,500	1.0%
戸田建設	515,000	1.6%	23,600	-14.8%	25,700	-15.4%	16,900	-14.4%
五洋建設	491,000	4.2%	29,000	-4.8%	28,500	-6.7%	20,000	-4.7%
三井住友建設	432,000	2.5%	18,500	18.7%	16,000	22.5%	10,000	14.4%
フジタ(単体)	405,000	6.8%	14,100	15.5%	12,700	43.2%	8,500	52.4%
合計	10,517,400	6.5%	575,400	-16.2%	586,400	-17.4%	402,400	-18.5%

<お問い合わせ先>

ヒューマンリソシア株式会社

「建設HR」編集部 E-mail : hrouken@athuman.com

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿プライムスクエア1階

URL : <https://kensetsu-hr.resocia.jp/>